



ニイガタマシンテクノ(新潟市東区、田村幸夫社長)は、本社工場内にある食堂で、卓球台やエアロバイクなどの健康器具を自由に使えるようにしている。従業員が休憩時間に利用するほか、最近はおも卓球台を活用する。食堂は今、新旧の社員が健康づくりに励む拠点になっている。食堂内にある簡単な運動ができる空間は、もともと現役従業員の福利厚生の一環として2018年ごろに整備した。田村社長は「面

## ニイガタマシンテクノ



食堂の一角にある卓球台でプレーするOBら  
(ニイガタマシンテクノ提供)

白がって最初はみんなは「それなら卓球だけよく使っていた」と振りで帰らないで、ぜひ戻り返る。だが、20年に新食もどろぞ」と、OB型コロナウイルス感染にも開放したという。症が流行し、利用を一時停止した。その後、感染症の沈静化に合わせ、徐々に利用を再開した。同じころ、OBが通っていた近所の公的立体育館がワクチン接種会場になった。卓球台を使わせてほしいとの相談を受けた田村社長は、総カロリーや脂質

白がって最初はみんなは「それなら卓球だけよく使っていた」と振りで帰らないで、ぜひ戻り返る。だが、20年に新食もどろぞ」と、OB型コロナウイルス感染にも開放したという。症が流行し、利用を一時停止した。その後、感染症の沈静化に合わせ、徐々に利用を再開した。同じころ、OBが通っていた近所の公的立体育館がワクチン接種会場になった。卓球台を使わせてほしいとの相談を受けた田村社長は、総カロリーや脂質

現役従業員以外にも開放している食堂は、新潟鉄工所出身のOBらとの多世代交流の拠点にもなっている。

ニイガタマシンテクノは23年度を「健康経営元年」と位置付け、現役従業員の健康状態の分析を進める方針。笠原聡史管理副部長は「会社として分かる範囲でまずは情報を分析したい」とする。田村社長も「当社もやはり人が資本。設備と同じように人にも投資したい」と力を込める。

(新潟・渋谷拓海)

# 工場社食の一角に運動場